

養正小学校附属幼稚園保護者様との意見交換会① 会議録（5月30日）参加者 17人

「養正幼稚園・昭和幼稚園・双葉保育園の統合について」事前にいただいた意見書への回答および意見交換

（要点筆記）

（1）三園統合について、この案が決まった意図、時系列

担当課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年秋、令和元年10月の保育料無償化により幼稚園園児数が激減し、長時間保育・未満児保育のニーズが拡大。少子化を背景に、多治見市の幼児教育・保育をどのように維持、整備するのかを検討するため、公立幼保職員を含めての市役所内での幼保あり方検討プロジェクト会議を立ち上げた。</li> <li>・令和4年度までは主に笠原こども園、小泉保育園と北野保育園の統合について検討協議。</li> <li>・令和5年8月から、多治見市全体像含め幼稚園の今後について具体的な検討を開始。（これまでに6回開催）令和6年度の園児数減少率や、令和7年度の入園受付人数から、統合案を固めた。</li> <li>・令和7年1月 市役所内部の調整会議。</li> <li>令和7年2月 市役所内部の政策会議において、統合の方向性について確認。</li> <li>令和7年5月 多治見市議会の全員協議会で説明。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多治見市公共施設適正配置計画（令和6年3月）には、この統合のことは記載されていない。スケジュール感として、素案が出てから決まるまでが早いと思うが、これが普通なのか。</li> </ul>
担当課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピードは早い。それほど、急激な園児減少による存続の危機感が大きく、園児の社会性の育ちを保証するためにも統合案を進めた。</li> </ul>

（2）養正・昭和、双葉の園の維持費の内訳

担当課	<p>令和5年度決算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養正幼：46,537千円（人件費42,901千円 施設費3,637千円）</li> <li>・昭和幼：47,355千円（人件費42,901千円 施設費4,457千円）</li> <li>・双葉保：149,659千円（人件費127,052千円 施設費22,607千円）</li> </ul>
-----	---

（3）公立幼稚園の改革をせずに幼稚園の閉園、統合に至った理由

保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育の回数増や時間延長、夏休みの預かり保育の実施など行えば入園希望者も増えるのではないかと。公立幼稚園として園児確保の改革をしていないにもかかわらず、園児数減を理由とした統合案を提示するのはおかしいのではないかと。</li> </ul>
担当課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の園児確保策として、預かり保育のあり方については検討してきた。それを実現させるためには今より職員が必要となるが、現在の人員配置では困難であり断念せざるを得なかった。力不足であり、申し訳ない。なお、保育ニーズの高まり、3歳未満児保育希望の急速な増加などから、公立幼稚園よりもはるかに預かり時間の長い私立幼稚園も含めて幼稚園入園希望者が激減した。私立幼稚園は51%の減、公立幼稚園は62%の減。急激な園児数の減少に早急に対応し、（子どものことを第1に考え）集団生活の中で社会性を身につける環境を提供できるよう、公立幼稚園を延命させるためにも、2園の統合が適切であると判断した。</li> </ul>

（4）入園時説明されず、事前の打診がなかった理由

担当課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（1）でご説明したように、市役所内部での会議で方向性を固めたのが令和7年2月であり、入園決定後であった。入園前の説明が実現できず大変申し訳ない。知らずに入園した年少児を養正幼稚園で卒園させたいという願いは痛いほど理解できるため、統合時期を令和9年から令和10年4月とする協議をはじめた。</li> </ul>
-----	--

（5）保育料無償化の前から幼稚園児童数の減少はあったのに、今まで対応がなかった理由

担当課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的な出生数の低下から、幼稚園・保育園共に園児数は減少してきていた。公立幼稚園としても、園児数が減少してきていたものの、当面は存続できるものと期待していた。しかし、予想を上回る園児減少から存続が困難になると判断し、統合して存続する方向へシフトした。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の良さとは何か</li> </ul>
担当課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園も幼稚園も、平成29年改訂の幼稚園教育要領と保育所保育指針に謳っている目指す姿、身につけさせたい力は同じである。私立幼稚園は様々な活動（英会話、プール、体操など）を設定し、園の特徴をアピールし園児確保に努めている。公立幼稚園はアピールの力は弱いかもしれないが、公立幼稚園の良さは「なかよし遊び」であると思っている。遊びから学ぶ、育つ、を実践している。好きな遊びを通して、じっくり遊びこむことで、考える力や試す力、気づく力、失敗から学びを得て意欲を育てていく。集団の中でしか学べないことである。また、自然な異年齢での関わりから心の面の育ちにもつながっている。</li> </ul>
(6) 養正・昭和それぞれにこども園ができない理由	
担当課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園とこども園では設置基準が異なる。例えば、3歳未満児を受け入れるための施設改修、3歳未満児の給食は自園調理となるため園内に調理室設置が必要となる。職員の配置基準も異なるため、3園を合計した現在の職員数よりもさらに多くの職員が必要となり実現は難しい。</li> <li>・2園を統合することで人員を確保できれば、預かり保育についても検討の可能性が出てくるため、改善にもつながると考えている。</li> </ul>
(7) 駐車場、出生率のみで昭和幼稚園への集約を決めた理由	
担当課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児にとっては、どちらの園にもそれぞれの良さがあり、比較は難しい。統合した場合、どちらの園も人数的に十分な広さがある。90人定員であるが、もともとはもっと多くの園児が通っていたため施設的な問題はない。統合すると50人規模を予想しているが、その先も園児は減少していくため施設面ではさらに余裕ができる。双葉保育園とのこども園化まで、幼稚園として存続させたい。</li> <li>・駐車場確保は、園としては大きな問題である。現在は養正幼稚園の園児数が少ないため困り感はないかもしれないが、人数が増えれば当然車の台数も増える。過去、ドライブスルーでの送迎を行っていたことも、駐車場がないための対策であった。これまでの背景も加味して選考した。昭和幼稚園は、送迎時に園の駐車場と小学校の駐車場を合わせて、53台駐車可能である。自宅から遠くなり送迎時の不便さをおかけすることを考慮すると、駐車場は最優先と考えた。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・築年数は同じかもしれないが、増築部分は養正の方が新しい。施設の延床面積や、見た目の園庭の大きさも、養正幼稚園の方が広いのではないか。</li> </ul>
担当課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに施設の面積は養正幼稚園の方が広い。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和幼稚園へ向かう道は混むのではないか。駐車場があっても通にくいのではないか。</li> </ul>
担当課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養正方面から昭和へ向かう道は登降園時間での大きな問題はないと考えている。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものことが一番と言っているが、コストカットが第一にしか思えない。</li> </ul>
担当課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスト面での削減が一番に数字として明確に表れるため、そう思われるのは事実であろう。しかし、今の通園している子どもたちはもちろん、数年後の子どもたちのためにも、集団の中で育ちあえる環境を作っていくことが最優先だと考えた。少人数で手厚い対応はよいが、子どもが自ら発信する力や、人と接する中で折り合いをつけていくことは、ある程度の大きさの集団が必要であると考えている。そして、それを幼児期に体験し獲得して</li> </ul>

	いくことの必要性を感じている。小さな集団から小学校の大きな集団へ入った時の子どもの戸惑いは計り知れない。子ども自身の力を伸ばしていくことに直結する。
(8) 「親育ち4363」で家庭、学校、園、地域の連携を謳っているのに、校区から附属幼稚園を失くす理由	
担当課	・附属幼稚園だけでなく、どの保育園、幼稚園でも連携を行っているため、その点の心配はないと考えている。
保護者	・南坂上公園や養正交流センターを整備したのはなぜなのか。養正幼稚園を失くすことが分かっていたのならば、無駄だったのではないか。
担当課	・公園等の整備計画の段階では、幼稚園の統合は上がっていなかった。養正幼稚園の子にとっては、利用しやすい施設であり、よい環境にある。どちらの施設も、養正幼稚園の子だけでなく、双葉保育園や星ヶ台保育園の子も利用している。多くの市民が利用できる場となっている。双葉保育園との「統合こども園」の場所を検討する際は、そうした地域資源も含めて検討していきたい。
(9) 幼稚園と交流のある、小学校や高校、高齢者サロン等とのイベントはなくなるのか。	
担当課	・形は変わるかもしれないが、今後も方法を考えながら行っていきたい。昭和幼稚園は、昭和小学校との交流、高齢者交流、地域交流として他園との関わりや、土岐川観察館との交流も盛んである。
保護者	・双葉保育園や昭和幼稚園での説明会ではどのような意見があったか。
担当課	・統合の時期や、園の統合が進んできた場合の送迎バスについての質問があった。
保護者	・昭和幼稚園の保護者から、養正幼稚園と一緒にすることへの不安はあったか。
担当課	・なかった。
保護者	・上の子が療育に通っていたが、私立幼稚園で入園を断られた経緯がある。この地区で別の園を探すと、バスのある董幼稚園や大和幼稚園などの私立幼稚園となる。支援が必要な子についてのフォローはあるか。
担当課	・公立園の役割として、インクルーシブ教育の推進がある。私立園を含めて広く支援が必要なお子さんを受け入れてもらえるよう、人員を確保するための補助金を市として整備している。
保護者	・新しいこども園がどこにできるのか想像がつかない。
担当課	・皆さんの意見を聞いて、今後検討していく。
保護者	・昨年4月に多治見に引っ越してきて、今回初めてこのことを知った。危機感があったことも知らなかった。養正幼稚園は、人数も少なく、地域も温かく、施設も整っており、子どもは友達もできて楽しんで通園している。下の子も入れたいと思っていたため、たとえ決定前であっても、検討しているということは入園前に知りたかった。要望をすべて聞いてもらえるとは思っていないが、しっかり情報提供をしていただき意見を聞いてほしい。子どもたちのために良い方向へ向かうことを期待したい。
担当課	・要望があれば、何回でも話し合いの場を作っていきたいと考えている。
保護者	・最終結論はいつまでに出すのか
担当課	・次年度の入園受付時には広く情報を届けられるように進めていく予定。

保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3歳未満児保育に対して手厚く改革がされているが、例えば幼稚園の給食費を無償にすることで園児数確保になるのではないか。そんなに3歳未満児で預ける方が本当に多いのか。</li> </ul>
担当課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給食費の無償化は現段階では難しい。全国的にも3歳未満児の保育ニーズは高まっている。多治見市も同様に3歳未満児の保育希望者が多いのが現状である。（民間企業も同じだと思うが、我々が「良い」「残したい」と考えるサービスや施設に固執するのではなく）時代や世の中のニーズ変化に合わせて、行政サービスも変えていかざるを得ない。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者だけでなく地域の方にも話を聞いてもらいたい。養正幼稚園を残したいという地域の方もいる。</li> </ul>
担当課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域説明会を6月中に開催予定。なるべく早めにと考えている。</li> </ul>